

5) 首里城歴史文化継承基金（首里城未来基金）事業

幸喜 淳¹・嘉手苅なつき¹・鶴田 大¹・高嶺瑞貴¹

キーワード：人材育成 伝統技術 継承 建造物木工 木彫刻 首里城未来基金

1. はじめに

本事業は、令和4年に、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、一般財団法人沖縄美ら島財団、沖縄県立芸術大学の4者が締結した「首里城復元における技術継承・人材育成にかかる連携協定」に基づいて実施している。令和8年の首里城正殿の完成、その後の南殿等の焼失建物の復元、さらには復元後の補修・修理に対応できる人材の育成を目的として、沖縄県が設置した「首里城歴史文化継承基金（首里城未来基金）」を活用し、伝統的建築技術の継承に取り組んでいる。

これまでの取組により、建造物木工・木彫刻の各分野において基礎から応用までの技術習得が進み、実務に対応可能な人材が着実に育成されつつある。また、県外研修や講義の実施を通じて人材ネットワークの形成を促進するとともに、継続的な技術継承を支える体制の基盤構築を図っている。

2. 事業概要

建造物木工分野と木彫刻分野の2分野において研修を実施した。事業3年目となる今年度は、建造物木工分野4名、木彫刻分野2名が受講した。また、2分野のアドバイザーとして、以下の3名を選出し、助言を受けた。

- ・建造物木工：平良 啓（(公社)沖縄県建築士会会員）、金城 稔（金城建設社長）
- ・木彫刻：波多野 泉（沖縄県立芸術大学学長）

1) 講義

本年度の研修カリキュラムは、以下の時間数で実施された（表-1）。

- ・建造物木工：計77時間（講義8時間、実習54時間、先進地視察15時間）
- ・木彫刻：計86時間（講義9時間、実習60時間、先進地視察17時間）

開講式は令和7年9月13日に実施した（写真-1）。また今年度は、さらなる次世代への継承のきっかけとして、木彫刻分野における高校生等を対象としたワークショップを開催した。

2) 分野別専門実習

(1) 建造物木工分野

実習では、金城建設の金城稔氏の指導のもと、令和5年度から昨年度にかけて隅木・垂木まで施工していた貫構造の屋根架台に、広小舞と野地板を取り付け、完成させた。

また、伝統技術における構造理解の深化を目的として、「腰掛け蟻継ぎ」「鎌継ぎ」「追っかけ大栓継ぎ」等の現場でよく用いられる組手・仕口の模型製作を1人につき3組製作した。1本の角材から立体構造を構築する過程において、墨付け段階からの正確な構造理解が不可欠である。初年度は難航していた研修生も3年目となる今年度は、比較的順調に取り組んでいる様子であった。

一方で、今年度は道具の取扱いにも重点を置いた。宮大工においては、差金（さしがね）を用いた規矩（きく）術があるが、道具の扱いが仕上がりに与える影響の大きさを認識し、職人としての探求意識の醸成と自己の技術水準の把握につながった実習であった。（写真-2、3）。

(2) 木彫刻分野

今年度は、首里城正殿に掲げられる扁額の額縁彫刻を題材とした実習を実施した。波多野学長による講義では、類例資料の高精細画像を用いて、龍の鱗や瑞雲の彫りの深さなど細部の表現を丁寧に観察した。実習では、講師の長尾恵那氏が助言を行いながら、研修生自身が額縁彫刻における龍の表現方法を探求する内容とした（写真-4、5）。また、ワークショップには木彫刻や美術に関心のある高校生および一般参加者10名が参加した。講師の長尾氏による扁額復元や木彫刻で使用する道具・木材の解説の後、研修生が彫刻作業の実演を行った。参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な交流の場となった（写真-6、7）。

3) 先進地視察

文化庁主催「日本の技フェア」（福井県・11月21日～24日）に参加した。現地で日本伝統建築技術保存会との意見交換会、(公財)美術等の選定保存技術の体験を行うとともに、日本一複雑な屋根構

¹ 琉球文化財研究室

造とさされている岡太神社・大瀧神社や北陸で唯一現存の天守閣がある丸岡城、現在令和の大修理の最中である大安禅寺を視察した。意見交換会では、首里城復元工事に従事した宮大工から、継ぎ手・仕口の技法である「上げ蟻」「下げ蟻」や「貫木家(ヌチジャー)」は他地域に見られないとの指摘があり、沖縄の技術的独自性を再確認した。また、「木の感触を肌感覚で覚えること」が重要であるとの助言を得た(写真-8、9)。

県内視察として、首里城正殿および円覚寺復元工事現場を訪問した。首里城正殿では、建造物木工分野アドバイザーの平良啓氏の案内により、素屋根が取り外された正殿を正面から見学し、復元工事の詳細および進捗について説明を受けた。その後、円覚寺三門復元工事現場を視察し、普段は従事者である研修生に対して、改めて復元の概要や歴史について説明が行われた(写真-10、11)。

3. 外部評価委員会コメント

将来を見据えた人材育成の取り組みであり、その成果に期待する。

(高良顧問：琉球大学名誉教授)

表-1 講義・実習・先進地視察等

月日	科目	講師(敬称略)
令和7年9月13日 10:00~14:30	開講式	沖縄県職員、波多野泉(沖縄県立芸術大学学長)、他
	「琉球建築」の特徴と技術、正殿復元の工種	平良啓 (公社) 沖縄県建築士会)
	首里城正殿彩色塗装について	小野村勇人 (有限会社彩色設計)
令和7年11月21日 ~11月24日(月)	福井県視察	文化庁「日本の技フェア」、日本伝統建築技術保存会他
令和8年2月6日 14:00~15:30	文化財修復について	矢野冬馬 (文化庁文化資源活用課)
令和8年2月6日 15:40~17:10	沖縄における修復事例について	今岡武久 (公財)文化財建造物保存技術協会)
令和8年3月4日 9:30~10:30	首里城復元に向けた取組み	與那嶺盛明 (国営沖縄記念公園事務所首里出張所長)

県内視察		
令和8年3月4日 10:30~12:30	首里城正殿/円覚寺三門復元工事現場視察	平良啓((公社) 沖縄県建築士会)
令和8年3月19日 10:00~12:00	扁額等漆塗装現場視察	諸見由則 (漆芸工房)
建造物木工 専門実習		
令和7年10月10日 ~令和8年3月14日	建造物木工実習	金城稔 (金城建設)
木彫刻 専門実習		
令和8年1月31日 ~3月17日	木彫刻実習	波多野泉(沖縄県立芸術大学学長) 長尾恵那(沖縄県立芸術大学講師)



写真-1 開講式の様子



写真-2 建造物木工実習①



写真-3 建造物木工実習②



写真-4 木彫刻分野実習①



写真-5 木彫刻分野実習②



写真-6 木彫刻ワークショップ①



写真-7 木彫刻ワークショップ②



写真-8 日本伝統建築技術保存会との
意見交換会（福井県）



写真-9 文化庁主催「日本の技フェア」で
他分野の技術を体験（福井県）



写真-10 首里城正殿復元工事現場視察

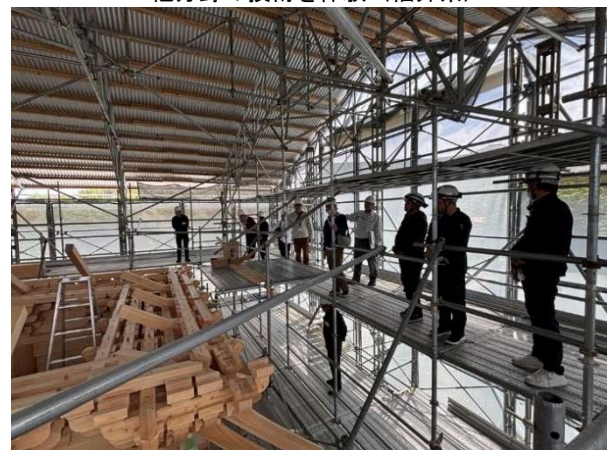


写真-11 円覚寺三門復元工事現場視察